

平成29年度 学校自己評価システムシート (秀明英光高等学校)

目指す学校像	常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする。
--------	-------------------------------------

重点目標	1 父母の教育信託に応える教育を行う。 2 生徒に学習の喜びを与え、確かな学力の定着を図る。 3 生活指導の徹底。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 3 1 日 現 在)		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	創立者の教育理念を理解し、魅力あふれる学校づくりに専念している。一層徹底するための課題は次のとおりである。 ①授業の目的を理解させ、「秀明エリート」を育てる。 ②学校と家庭との「共育」「協育」を進める。 ③希望する進路が選択できるよう指導する。	学習指導の充実と希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 「心の学習」の時間を設け、人間性豊かな人物教育を行う。 「武道」を必修とし、日本の伝統と礼儀作法を学ぶ。 父母会、授業公開を行い、学習面や生活面について十分な話し合いの場を設ける。 志望大学の過去問題演習を行って、学力の伸長を図る。 面接指導、小論文指導を学校全体で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 父母会、授業公開、三者面談の状況。 「授業アンケート」結果の改善状況。 過去問題演習への取り組みと結果。 面接指導、小論文指導の結果。 進路実績。 	<ul style="list-style-type: none"> 父母会(3回)、授業公開(1回)、三者面談(3回)を実施し多数の参加があった。 授業公開時の「授業アンケート」を検証し改善に努めた。 AO、推薦入試に向けて面接・小論文対策を積極的に実施した。 希望する進路が決定するように努め、上級学校への進学率は84%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年以上の参加を呼びかけ学校と家庭の「共育」、「協育」を促進させる。 面接・小論文対策は組織的な計画を立て、全教員で実施し徹底させる。 「実力相応校」に満足せず、「目標校」「挑戦校」に合格するまで粘り強く指導する。
2	生徒に学習の喜びを与え、確かな学力の定着を図っている。一層徹底するための課題は次のとおりである。 ①到達度に応じた教科指導力を身につける。 ②週末課題の定着とノート学習の推進。	授業の改善と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「大学入試問題正解」を購入し、指導教科の学力を身につける。 授業アンケートを実施し、改善方法を考え実行する。 研修授業は、必ずテーマを明確に行う。 毎週2回以上、他の教員の授業を見学し、その記録をもとに改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> センター試験だけでなく「全国大学入試問題正解」の問題を掌握。 年間5回の授業アンケートを実施。 年間2回以上の研修授業を実施。 毎週、他の教員の授業を見学し、授業参観ノートを作成し、改善点をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「大学入試問題正解」などを利用し指導教科の学力向上に努めた。 「授業アンケート」を5回実施し授業の改善に努めた。 研修授業を年間2回以上実施し指導力の向上に努めた。 年間50コマ以上の授業を見学し記録を残し改善に役立てた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も「大学入試問題正解」などを利用し指導教科の学力向上に努める。 次年度も年間5回の授業アンケートを実施し、その結果をもとに授業の質を一層向上させる。 様々な教科の授業参観を行い、授業技術を向上させる。
	多くの生徒を積極的に資格試験に挑戦させている。課題はより上位級を取得させることである。	資格試験	<ul style="list-style-type: none"> 英検は、放課後等を活用して指導を強化し、また過去問題演習を行って、全員を上位級に挑戦させる。 漢検は、学力を見極めた上で、多くの生徒に受験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英検、漢検への取り組みと取得状況の検証。 その他の資格試験の結果。 	<ul style="list-style-type: none"> 英検では、過去問題演習を行い99.3%の生徒が上位級に挑戦した。 漢検では、学力を見極めた上で96.7%の生徒が受験した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も学年全体で組織的に対策を行い、最後まで粘り強く指導し合格させる。 数学検定やパソコン検定にも、多くの生徒が受験するよう学年集会、HRで促す。
3	学校生活をよりよくすることを目標に生活指導を行っている。課題は次のとおりである。 ①基本的な生活習慣の確立。 ②5つの約束の厳守。 ③「心の学習」の充実。 ④安全管理の徹底。	生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪、身だしなみの指導は、学年全体で行う。 いじめは、生活アンケートや面談の実施により、防止に努める。 親や先祖に対する謝念の心を育てる。 新聞記事を使い、「善と悪」「許せることと許せないこと」の区別、正しい判断力、思考力を身につける。 各種訓練、講演会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪検査は月1回、身だしなみの指導は随時実施。 生活アンケート、面談の実施状況。 「心の学習」確認テストの実施と結果。 新聞記事の活用状況。 危機管理マニュアルに基づく各種訓練の実施。 サイバー犯罪防止、薬物乱用防止、非行防止等の講演会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪検査は学年集会で実施、身だしなみ指導は、毎朝の登校指導から始まり、随時実施した。 「いじめゼロ宣言」を実践した。 担任との面談は週1回以上、生活アンケートは月に1回以上実施した。 「心の学習」確認テストを8回実施しその定着を図った。 各種訓練、講演会を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会での頭髪検査を継続し、身だしなみ同様、随時指導する。 「いじめゼロ宣言」の継続。 次年度も新聞記事を活用し、正しい判断力を身につけるようにする。 週1回以上の面談、月1回以上の生活アンケートを継続する。 定期的に講演会を実施し、正しい判断力と思考力を養う。

実施日	平成 30年 4月 30日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 父母会、授業公開、三者面談を定期的実施している。 父母の信託と期待に応える教育のために、全教職員が心一つにして努力している。 家庭との連携を取り、学校と保護者が共に育てる体制が整っている。 上位生徒だけでなく、下位生徒もきめ細かな指導をしている。 「面倒見の良い学校」、「学力を伸ばす学校」として評価できる。 「一斉メールシステム」を活用し、学校と家庭の連絡・危機管理が取れている。 	
<ul style="list-style-type: none"> センター試験や過去の入試問題を解き、指導の研鑽に励んでいることが評価できる。 年間5回の授業アンケートが実施され、その結果に基づいて授業・指導が改善されている。 様々な教科の授業の毎週参観は、より良い授業と指導力アップに効果的である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 資格試験に積極的に挑戦させている。 過去問対策が徹底している。特に、教科を中心に 学年全体で組織的に指導している点も評価できる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 毎朝のあいさつ・身だしなみ指導は、学校全体で組織的に実施されており高く評価できる。 毎週の面談と毎月のアンケートによって、学習と生活上の問題の早期発見に努めてほしい。 「いじめゼロ宣言」「いじめ・暴力防止の誓い」を実践し、敏速な対応をしている。 危機管理マニュアルに基づいた各種訓練を実施している。 サイバー犯罪防止、薬物乱用防止、非行防止、痴漢防止などの講演会を随時実施し充実している。 	